



98号
2023.7.12



青森県高P連調査広報委員会
題字：八戸東高等学校 諏訪内博彦

青森県高等学校PTA連合会事務局

〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内

TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587

E-mail: akp017si@galaxy.ocn.ne.jp



←「高P連公式HP」QRコードからアクセス!!
http://www.aomori-koupren.com/

令和5年度青森県高等学校PTA連合会 五所川原大会



去る6月9日、五所川原市ふるさと圏民交流センター『オルテンシア』に於いて、青森県高等学校PTA連合会五所川原大会が4年ぶりに開催されました。

五所川原高校・五所川原工科高校・五所川原第一高校三校の吹奏楽部による歓迎セレモニーで迎えられ、西北地区協議会副会長の和田祐治氏の開会のことばで開会行事が始まりました。

葛西大会長から、「先日、高校教育改革についての初会合で『これまででの改革についての検証』『政府や地域の声を吸い上げたプランの作成』『担い手の育成に直結する学科の設置』の三点について会長として述べてきました。これからも皆様の様々なご意見をしっかりと吸い上げて県政に届けていきたい」と心強いあいさつがありました。

続いて、西北地区協議会会長の太田心生実行委員長が、「家庭・学校・地域との交流を持つことで仲間意識が深まり連携が生まれ、子どもを真ん中に置いた地域ぐるみの子育てができると考えている」と挨拶されました。



感謝状・表彰状贈呈では、感謝状・表彰状・退任校長・渉外主任・広報紙コンクール入賞校のそれぞれの代表として、板柳高等学校PTA前会長三浦和馬氏、五所川原工業高等学校前研修委員長笠井理嵯子氏、五所川原高等学校前校長隅田佳文氏、鶴田高等学

高等学校前校長隅田佳文氏、鶴田高等学
所川原農林高等学校PTAに授与
されました。代表して隅田前校長
が受賞者のお礼と「県高P連が青
森県そして日本の未来を担う高校
生の健全な成長のため、保護者と
教職員が共に手を取り合い、研鑽
を重ねる会としますます発展さ
れることを祈念申し上げます」と
謝辞を述べられました。

青山祐治青森県副知事、長内修
吾青森県教育委員会教育次長、高
橋英樹青森県高等学校長協会会長
からお祝いのことば、佐々木孝昌
五所川原市長から歓迎のことばと
続き、開会式は盛会のうちに終了
しました。

大会テーマ
「つなぐ、つなげる、つなげる」
集まり、話せば、心つなげる



青森県高等学校
PTA連合会
会長 葛西 孝之

五所川原大会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。
今年に入り、「チャットGPT」に代表される生成AIが注目を集めています。インターネット上で学習したデータを基に回答し、本文のような挨拶文も簡単に書いてしまいます。
文部科学省は先月、教育現場での活用について、夏までにガイドラインを示す方針を打ち出しました。学習能力の高い生成AIですが、インターネットには必ずしも正しい情報ばかりあるとは限らず、間違った回答をする可能性もあります。
将来、解決困難な課題に立ち向かっていく高校生たちにとって、今後、有力なツールとなり得ますが「どのように使えばいいか」、自分の考えを形成するのに生かすかを、私たち親世代も一緒に考えて行かなくてはいいかなと考えています。
では、ポストコロナ新時代にあたり、私の思いを3つお話させていただきます。
8月に全国大会が仙台市で開催されます。リアル・リモート、可能な手段で積極的に学ぶ機会を作りましょう。県高P連はできる限り、サポートいたします。
次はつながりを取り戻そうということです。
学校・地域・教育行政機関などとのコロナ禍で失われたつながりを取り戻し、子どもたちの未来のため何ができるか、一緒に考え、意見を交わし、共に行動しましょう。
最後はあるがままの自分を大切にということですが
自分らしさを失わず、できる範囲で、活動しませんか？自分を大切にしながら気楽に活動に参加して欲しいと願っています。
各校の会員の皆様、子どもたちが輝ける未来に向かっていけるよう、力を尽くしていきましょう。

記念講演

『決してあきらめない』

会場にいる多くの皆さんが心待ちにしていた舞の海秀平氏の講演は「決してあきらめない」と題して行われ、たちまち聴衆の心をわしづかみにしてしまいました。舞の海さんは鯉ヶ沢町出身で日本大学卒業後は、山形県の高教員の内定が決まっていたにもかかわらず、大相撲入りを決意。

しかし、当時の新弟子検査基準

の身長に4センチ足りず、不合格。それでも夢をあきらめず、二度目は頭にシリコンを入れて合格したというエピソードや、当時の巨漢力士、小錦関や曙関との一戦を面白おかしくお話し下さいました。角界入り後は体格面を逆手に取り、自分より大きい相手に立ち向かい、「技のデパート」「平成の牛若丸」の愛称で相撲を楽しませてくれました舞の海さんですが、人生何が起きるかわからない、



あきらめず、情報に左右されず、工夫し、何事も柔軟に考える事が大切と、素敵な声で語りかけてくれました。
楽しい時間はあっという間でし
た。わかりやすく面白い相撲解説も楽しみにしています。お忙しい中、ありがとうございました。
(弘前中央高等学校
PTA会長 高松 尚子)

生徒発表

五所川原第一高等学校
津軽三味線部部长 木村 光惺

6月9日、私たち五所川原第一高校津軽三味線部は令和5年度青森県高等学校PTA連合会五所川原大会の生徒発表に参加させていただきました。

今回は、私たちが生徒発表で披露しました津軽三味線組曲「響鳴」は津軽じょんから節やお山参詣、三大ねぶたといった青森県を感じていただける曲が多数盛り込まれていました。この津軽三味線組曲「響鳴」を演奏するにあたり、会場のお客様をどれだけ感動させられるか、そしてどれだけ青森県の情景を思い浮かべていただけるか、部員全員が工夫を凝らし演奏させていただきました。この演奏がみなさまの心に響いていたことを願い終わりとさせていただきます。



歓迎セレモニー

五所川原高等学校
吹奏楽部顧問 松山 和裕

開会行事に先立ち、五所川原市内3校の吹奏楽部（五所川原高校38名、五所川原工科高校22名、五所川原第一高校5名）総勢65名による歓迎の演奏をいたしました。

名曲「Make Her Mine」をスウィングアレンジしたナンバーに始まり、りんご追分・柔・お祭りマンボ・愛燦燦をたっぷり聴かせる「美空ひばりメドレー」、ラテンのリズムが特徴の「ジェラート・コン・カフェ」の3曲を、私たち高校生の若さとともにお届けしました。

コロナ禍により他校との交流や演奏の機会が失われていたなか

五所川原第一高等学校
吹奏楽部部长 佐野 未羽

今回、青森県高等学校PTA連合会五所川原大会の歓迎セレモニーに、五所川原高校と五所川原工科高校の吹奏楽部の皆さんと合同で参加させていただきました。五所川原第一高校の吹奏楽部の人数は5人ととても少なく、久しぶりの大人数での演奏で演奏している自分でも迫力を感じ、とても楽しい演奏で良い体験ができました。

現在、高校だけでなく、中学校でも吹奏楽部に入る人が少ない状態です。なのでこれからこのような機会を通して吹奏楽の楽しさを皆さんに伝え、吹奏楽部に入部する人が少しでも増えるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

で、貴重な機会をいただきましたことに心より感謝いたします。



五所川原工科高等学校
吹奏楽部顧問 青木 陽史

コロナ禍中の制限が緩和されつつある中、高P連県大会もほぼコロナ禍前の持ち方での開催となり、歓迎セレモニーは五所川原高校・五所川原第一高校・五所川原工科高校の3校の吹奏楽部による合同演奏を行いました。

日頃は3校別々に活動していることに加え、合同での演奏活動もしばらくぶりでしたが、生徒が学校を超えて連携したことにより、ごく短時間のリハーサルでも会場いたいた方々に楽しんでいただけた演奏ができたのではないかと思います。

複数校の交流が生み出す生徒のエネルギーは顧問の想像を超えるものであり、これが今後の活動に生かすことと期待しております。

研究協議



本校広報委員会の活動は、年2回の広報紙『合浦ヶ浜』の制作・発行を柱としています。

そのため随時、取材や編集会議を設定して活動しています。しかし、コ

ナ禍の3年間は、学校行事の中止や延期、普段の部活動の制限はもとより大会そのものも中止となり広報紙の発行さえ危ぶまれた状況でした。当然のことながら保護者の学校への出入りは大幅に制限されたここ数年でした。

当然、私たち広報委員会の活動にも支障をきたしていたのですが、学校側の特段の配慮で人数や時間帯を絞った上での取材活動は許していただき、何とか広報紙を発行することができたことはなによりだったと思います。

広報紙を制作する上で、コロナ禍でどのようにしたら活動を続けられるか、話し合いを重ね、頁数を8頁から4頁にして内容を絞るということにしました。広報委員会としては、制約を踏まえて、編集段階での写真の手配や原稿依頼などは担当の先生にも協力をお願いして、ようやく広報紙発行にこぎつけました。

コロナ禍とはいえ、『笹森儀助基金』のアピールや、

創立120周年記念事業を伝えることができたことは非常に嬉しく、これからの生徒の生き生きとした活動や、本校の歴史の重みを感じながら伝統のアピールに貢献できるような活動を目指したいと考えております。



研究協議



本校は、三八地域にある唯一の農業高校で、生物生産科は3つの農場で作物や花卉・果樹の栽培、環境システム科は農業施設の設備、システムにかかわる知識と技術の習得を目指して、それぞれの分野について学んでいます。

令和4年度は、健全育成委員会の活動として朝の一声運動を3日間、年2回実施しました。また、本校では八戸水産高校PTAと交流会を行っています。昨年度は3年ぶりに実施しましたし、水産高校の皆さんに本校の農場で果物や野菜の収穫体験をしてもらい交流を深めることができました。次回は水産高校へ出向いての実施を予定しています。

その他、1学年の名久井岳登山の際にはサポート活動として、登山前の水分補給の手伝いもしています。

また、本校PTA伝統の焼き肉のタレ作りも、3年ぶりに実施できました。

本校の農場で収穫した野菜を使い、お母さん方の愛情たっぷりのタレは収穫感謝祭で行う焼き肉の際に生徒に食べてもらっています。この活動もコロナ禍で中止が続く中で保護者から伝統のレシピを残さなければいけないと声が上がりがり実施したものです。

令和5年度からは生徒の全国募集を行い、南部町にも協力、連携してもらい、受け入れも始まっています。新しい時代に対応しながらこれからも活発なPTA活動していきたいと思っています。



研究協議



本校は、本州最北端の大間町であり、生徒の大半は、「北通り3町村」と呼ばれる大間町・風間浦村・佐井村と、むつ市の大畑地区から通学しています。2年生からは民間就職や専門学校進学を目指すI型と大学進学や公務員就職を目指すII型に分かれています。

本校のPTA活動の特徴はPTA総会の他に地区PTAがあることです。3地区毎にPTA組織があり先生方と膝を交えての交流をしています。昨年まではコロナ禍で実施できなかった地区PTAも今年は復活する予定です。

進路対策委員会は学校と共同開催の保護者対象進路講演を実施しています。

また、耐久遠足では健全育成委員会が交通安全対策での協力、研修・母親委員会が昼食の豚汁作りを行っています。大間高祭では母親委員会が模擬店を出し、調理、販売をしています。例年秋に行っている朝の挨拶運動は3日間健全育成委員会が中心となって実施しています。

『本州最北端のPTA活動』

大間高等学校PTA会長 東出 節男氏

本校は「地域に密着した教育が特色で、PTA活動も地域の一大環といえます。来年度からの全国募集やコミュニティスクール導入にあたり、さらなるPTA活動の充実を目指していきたいと考えています。

(調査広報副委員長

神 康子)



令和5年度青森県高P連 五所川原大会を終えて

大会実行委員長 太田 心生

令和5年度青森県高P連五所川原大会は、県内各地より約300名の会員をお迎えし開催されました。記念講演では舞の海様自身の経験を通した貴重なお話を賜りました。また、研究協議では、これからのPTA活動を考える有意義な時間となり、実に4年ぶりの県大会を盛会のうちに終えることができました。これもひとえに県高P連事務局の御指導と御支援、参加者の皆様の御理解、大会運営に携わった西北地区協議会の皆様の御協力の賜物であり、大会実行委員長として心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。



開会行事



表彰式



お祝いのことば



大会長あいさつ



受付



広報紙展示



歓迎セレモニー



研究協議



研究協議



研究協議



司会



生徒発表



情報交換会

「それいけめんちよこ活動部」

大間高等学校 めんちよこ活動部

みなさんは「めんちよこ」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。めんちよこことは「目に入れても痛くないほど可愛い」という意味があります。

青森県下北地域に縁のある方であれば、それとなく言葉のニュアンスを理解できるのではないのでしょうか。

本州最北の地、大間町。津軽海峡に突起するこの地の、いわゆる「お国言葉」、めんちよこ。この言葉を冠した「めんちよこ活動部」の活動についてお知らせします。

現在、めんちよこ活動部に所属する部員数は124名。ちなみに、大間高校の生徒数も124名すなわち全校生徒が加入しています。今では大所帯の大間高校めんちよこ活動部ですが、コロナ禍では状況が異なっていました。

私が大間高校に赴任した3年前、めん

頑張っています
我が部活



ちよこ活動部の部員数は1桁で実働しているのは2人のみという、存続すら危うい状態でした。更に、コロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、めんちよこ活動部の活動は減る一方でした。

転機が訪れたのは一昨年度のこと。当時の学校長の働きかけにより、めんちよこ活動部が全校生徒加入制になりました。感染症の収束とともに、地域のイベントも復活し、徐々に活動機会も増えていきました。

今年度は既に大間港フェリーお出迎え旗振りを実施し、24名の参加生徒でフェリー利用客をお迎えしました。今後は、高校生カフェの運営や大漁祈願祭での蛇踊り（じゃおどり）ボランティアなど、活動を拡大し大間町を盛り上げていこうと計画しています。

（教諭 佐藤 圭）

校 介 加 紹

大型実習船 第7代青森丸 竣工

八戸水産高等学校 校長 中川 伸吾



青森丸は、最新鋭の航海計器や実習機器等を備えるとともに、排気ガスから大気汚染物質を取り除くことで、優れた環境性能も有しております。また、Wi-Fi環境の整備によりICTを活用した効果的な学習も可能であることから、まさに動く教室としての利活用が期待されております。

今後、1年生は日本沿岸での体験航海、2年生はハワイ沖でのマグロの延縄や海洋調査などを実施する予定となっております。

第7代「青森丸」は、将来の水産業や海洋関連産業を担う、海のスペシャリストを育成することが使命であり、その期待に応えられるよう今後も引き続き努力して参ります。

数の御来賓のご臨席を賜り竣工式典を執り行いました。式典では、和嶋延寿教育長から式辞、三村申吾知事、安彦広斉文部科学省大臣官房審議官、三橋一三青森県議会議長から御祝辞を頂戴いたしました。

式典後は、館鼻岸壁に場所を移動して内覧会を実施しました。内覧会に先立ち、八戸北高等学校吹奏楽部のファンファーレを合図にテープカットが行われ、青森丸の門出に相応しい記念すべき一日となりました。



青森県教育委員会からのお知らせ

青森県の県立高校5校で、全国から生徒を募集しています！

県教育委員会では、県立高校の活性化のため、県外から目標を持った生徒を受け入れる「全国からの生徒募集」を実施しています。実施校は以下の5校。中学生のお子さんがある県外在住のお知り合い等がおられましたら、是非ご紹介ください。

鱒ヶ沢高校

柏木農業高校

大間高校

三戸高校

名久井農業高校

【5校は「地域みらい留学事業」にも参画しています！】



※地域みらい留学事業

（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが都道府県の枠を越えた高校留学を推進するため、事業参画校による合同学校説明会（オンライン方式、対面方式）等を実施しています。

←詳細はこちら【地域みらい留学HP】

問い合わせ先：

県教育庁高等学校教育改革推進室

TEL：017-734-9866

Mail：E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

青森県立高等学校魅力づくり検討会議について

県教育委員会では、令和3年11月12日に策定した令和5年度から令和9年度までを計画期間とする青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画に基づき、高校教育の充実に努めているところです。

この度、将来の本県高校教育を見据えた魅力ある県立高校の在り方を検討するため、広く有識者、学校関係者等により具体的な方策を検討する「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」を令和5年5月29日に設置しました。

本会議は公開で実施し、会議資料や概要等についてHPで公開することとした上で、県民の皆様から随時ご意見等をいただくこととしています。

会議資料・概要等はこちらから →
御覧いただけます。



会議に関する意見等はこちらで →
募集しております。



あなたの「学びたい」を支援します

○高等学校等就学支援金制度

高校に通う生徒に対して、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料等に充てるための高等学校等就学支援金を支給する制度（返済は不要）です。



県立高等学校における
「高等学校等就学支援金制度」について

○高校生等奨学のための給付金

全ての意志ある高校生等が安心して教育を受けられるよう、授業料以外の教育費負担を軽減するため、一定の要件を満たす高校生等の保護者等に給付金を給付する制度（返済は不要）です。



国公立高校生等奨学の
ための給付金について



私立高等学校等の
修学支援制度について

問い合わせ先：（公立）県教育庁学校施設課 TEL：017-734-9873

（私立）各私立高校又は県総務部総務学事課 TEL：017-734-9869

公益財団法人青森県育英奨学会の事業について

保護者が青森県民で、学業、人物が優れているにもかかわらず経済的理由により修学が困難な生徒及び学生に対し、以下の事業を行っています。

○高等学校奨学金

～部活動費、資格試験代、通学費等にご利用ください。

通学費返還免除制度もあります～

○大学奨学金

～充実した大学生活を送ろう～

○大学入学時奨学金

～大学入学時に必要となる経費に充てるための奨学金です～

○青森県学生寮

～東京で経済的な負担が少なく修学できます～

詳しくは、県HP [青森県育英奨学会](#)で検索 こちらからもアクセスできます →

問い合わせ先 青森県育英奨学会（県教育庁教職員課内）TEL 017-734-9879



令和5年度 一般会計予算

収入総額 15,334,000円
支出総額 15,334,000円
差引残額 0円

収入の部 (単位: 円) 支出の部 (単位: 円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	6,421,000	事 業 費	6,422,000
内 学 校 割	1,000,000	助 成 費	225,000
内 0		組 織 活 動 費	2,200,000
800,000		研 修 ・ 行 事 費	1,897,000
200,000		負 担 金	930,000
会 員 割	5,421,000	表 彰 費	330,000
県 立 ・ 全 日 制	4,728,000	会 報 費	840,000
私 立 ・ 全 日 制	630,000	運 営 費	5,450,000
定 通 ・ 特 別 支 援	63,000	会 議 費	650,000
助 成 金	400,000	旅 費	2,000,000
繰 越 金	7,612,651	印 刷 費	360,000
雑 収 入	349	事 務 費	400,000
受 取 手 数 料	900,000	通 信 運 搬 費	260,000
内 学 生 ・ こども総合保険	400,000	渉 外 費	200,000
内 高校生24時間総合保障制度	500,000	慶 弔 費	60,000
合 計	15,334,000	人 件 費	1,350,000
		使 用 料	100,000
		雑 費	70,000
		租 税 公 課	120,000
		繰 出 金	2,000,000
		予 備 費	1,342,000
		合 計	15,334,000

令和5年度 特別会計予算

収入総額 12,681,500円
支出総額 12,681,500円
差引残額 0円

収入の部 (単位: 円) 支出の部 (単位: 円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	10,681,056	助 成 金	0
繰 入 金	2,000,000	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	444	予 備 費	12,681,500
合 計	12,681,500	合 計	12,681,500

令和5年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所属校名	単P役職名
健全育成	委員長	中 村 美津緒	青 森 工 業	会 長
	副委員長	葛 西 眞智子	弘 前 工 業	生活安全委員長
	委 員	奥 光 幸	八 戸 西	健全育成委員長
	委 員	白 崎 春 樹	五 所 川 原 農 林	健全育成委員長
	委 員	木 村 理	大 湊	健全育成委員長
	事務局長	奈 良 研 一	青 森 工 業	渉 外 主 任
進路対策	委員長	長 内 俊 忠	尾 上 総 合 会	会 長
	副委員長	秋 山 直 仁	八 戸 聖 ウル ス ラ	進路対策委員長
	委 員	大 水 孝 良	青 森 商 業	進路対策委員長
	委 員	竹 内 由 佳 子	五 所 川 原 第 一	副 会 長
	委 員	野々宮 美弥子	三 沢	副 会 長
	事務局長	小 野 寿 夫	尾 上 総 合	渉 外 主 任
調査広報	委員長	関 合 美絵子	八 戸 工 業	調 査 広 報 委 員
	副委員長	神 康 子	青 森 中 央	調 査 広 報 委 員 長
	委 員	大 山 悠 子	弘 前 中 央	調 査 広 報 委 員 長
	委 員	成 田 豊	五 所 川 原 商 業	調 査 広 報 委 員 長
	委 員	宮 古 秀 樹	田 名 部	調 査 広 報 委 員 長
	事務局長	田 端 佐佳士	八 戸 工 業	渉 外 主 任
研 修	委員長	奈 良 真 弓	五 所 川 原	研 修 委 員 長
	副委員長	對 馬 明 宏	弘 前 南	生 徒 指 導 委 員
	委 員	小 野 寺 知恵子	青 森	副 会 長
	委 員	清 水 真 弓	八 戸 西	研 修 委 員 長
	委 員	気 田 賢 明	十 和 田 工 業	進 路 研 修 委 員 長
	事務局長	川 口 智	五 所 川 原	渉 外 主 任

令和5年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所属校名	備 考
会 長	葛 西 孝 之	青 森 森	次期会長予定
	高 橋 尚 裕	五 所 川 原	東青地区協議会長
	柴 田 福 幸	青 森 中 央	中南地区協議会長
	羽 賀 克 順	弘 前 南	三八地区協議会長
	河 村 泰 輔	八 戸 西	西北地区協議会長
	太 田 心 生	木 造	上十三地区協議会長
	太 田 正 幸	十 和 田 工 業	下北むつ地区協議会長
	濱 田 大 臣	む つ 工 業	青森県協議会推薦
	高 橋 英 樹	青 森 森	〃 〃
	下 山 敦 史	木 造	〃 〃
	森 田 勝 博	七 戸	〃 〃
	向 田 秀 美	八 学 光 星	私立高校保護者会推薦
	蝦 名 由 紀 子	青 森 西	会長推薦
	石 村 智 樹	青 森 明 の 星	〃
副 会 長	田 中 正 也	青 森 商 業	〃
	白 濱 卯 弘	弘 前 南	〃
	黒 坂 孝 孝	八 工 大 第 二	〃
	島 元 力	五 所 川 原 工 科	〃
理 事	千 葉 努	三 沢	〃
	黒 滝 一 雄	五 所 川 原 農 林	〃
	坂 上 佳 苗	北 斗	〃
	中 村 美津緒	青 森 工 業	〃
監 事	長 内 俊 忠	尾 上 総 合	〃
	関 合 美絵子	八 戸 工 業	〃
	奈 良 真 弓	五 所 川 原	〃
	問 田 名 部 智 之	八 工 大 第 一	〃

青森県高P連事務局

事 務 局 長	千代谷 均	安全互助会事務局長
事 務 局 次 長	長 尾 吉 哲	安全互助会事務局次長
事 務 主 任	今 美智留	

編集後記

新型コロナの位置づけが5類に引き下げられたことで、青森県の誇るべき宝である子供たちが笑顔で学校やクラブ活動に参加する姿を見る機会が増えたことは、私たちにとって何ものにも代え難い幸せな瞬間です。PTA活動は、子供たちの成長をサポートし、学校や地域との連携を深める貴重な機会です。お気軽にご参加ください。この会報「つながり」が、皆さまと学校と地域の「つながり」を築く一助となれば幸いです。今年度も様々な情報を発信し、様々な「つながり」を育んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(調査広報委員長 関合 美絵子)



令和4年度 収支決算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	決 算 額
経常収益		16,491,035
うち会費収入		15,376,300
うち雑収入		1,114,735
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		16,491,035

■費用の部

(単位：円)

科	目	決 算 額
経常費用		24,542,237
事業費		21,853,121
うち学校安全普及事業費		533,034
うち共済金等普及事業		8,194,762
その他の事業費		13,125,325
管理費		2,689,116
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		24,542,237

(単位：円)

正味財産期首残額	134,332,176
当期増減額 (a) - (b)	- 8,051,202
正味財産期末残額	126,280,974

令和5年度 事業計画

◆ 学校安全の普及充実事業

講習会・研修会の開催や共催、後援

◆ 共済金の給付

死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料

◆ その他目的を達成するために必要な事業

安全互助会だより60・61号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

令和5年度 役員名簿

■理事・監事

職 名	氏 名	所 属
理 事 長	大 溝 雅 昭	青森県高等学校PTA連合会元顧問
理 事	高 橋 英 樹	青森高等学校長 青森県高等学校長協会会長
理 事	越 田 宏 治	青森東高等学校元PTA会長
理 事	田 中 正 也	青森商業高等学校長
理 事	益 川 毅	三本木高等学校元PTA会長
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監 事	沼 尾 冬 樹	十和田西高等学校元PTA会長
監 事	對 馬 祐 之	三沢商業高等学校元校長

■評 議 員

職 名	氏 名	所 属
評 議 員	藤 澤 重 信	八戸工業大学第一高等学校長
評 議 員	吉 田 錦 一	大湊高等学校元PTA会長
評 議 員	三 浦 基	青森高等学校元PTA会長
評 議 員	木 村 真紀子	東奥義塾高等学校元PTA会長
評 議 員	秋田谷 誠	五所川原第一高等学校元PTA会長
評 議 員	下 山 昌 一	青森西高等学校元渉外主任

令和4年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業（助成金） 533,034円

(1) 県高等学校体育連盟	100,000円
(2) 県高等学校文化連盟	100,000円
(3) 地区協議会安全教育活動	233,034円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金給付事業 8,194,762円

(1) 死亡共済金	0件	0円
(2) 後遺障害共済金	2件	2,657,000円
(3) 負傷共済金	303件	5,387,762円
(4) 香 料	3件	150,000円

3 その他事業費

- (1) 安全互助会だより58号、59号発行
- (2) 安全互助会の手引き配布
- (3) 新入生用保護者用リーフレット配布

青森県高等学校安全互助会加入生徒数

全日制	25,171名
定時制・特別支援学校	958名
通信制	349名
総 数	26,478名